

# 平成23年度事業報告

(平成23年10月7日～平成24年3月31日)

平成23年度におきましても、環境は依然として厳しい状況が予想されましたが、その中で今後の自律的な運営を目指すために、平成23年6月に「公益財団法人」への移行申請を行い、内閣総理大臣の認定を得ることが出来たことから、期半ばで有りましたが平成23年10月7日に公益財団法人として、新たな一步を踏み出すことが出来ました。

これもひとえに、関係の皆さまのご支援ご協力の賜物と深く感謝しております。

新公益財団法人として初年度となる平成23年度につきましては、移行直後では有りましたが、中心的な事業であるマイクロマウス及びつくばチャレンジについて計画通り従来同様の体制にて、つくば市との共同主催の形で11月下旬に実施をし、関連学会をはじめとして多くの関係の皆さま方からの大きなご評価を頂く事が出来ました。

しかしながら、現状置かれた財政状況や人的環境等からすると、今後も同様の事業を同じ形で継続する事は困難と判断し、当初から5年間を目処として実施してまいりましたつくばチャレンジについては、今年度をもって現在の技術課題によるチャレンジは最終として一旦区切りをつける事とし、対外的にもその発表を行いました。

また、今後における財団のロボット事業としては、30余年継続してきたマイクロマウス事業に集中出来る体制構築を図る事に主眼を置き、来年度以降におけるその実施組織や運営方法の見直しを図りつつ、平成23年度のマイクロマウス全国大会においては、その委員会や参加者を主体としたサポーターズ組織を中心とした運営を行う実験的な試みも行いました。

平成24年度以降の全国大会の開催体制としては、当面の間においては、ご協力を頂ける大学を主体とした体制で開催する事を目標として、従来に比べて大幅に拡大した新たなマイクロマウス委員会体制や、同時に全国大会の為の運営を担う年度毎の組織としての実行委員会の新たな設置に向けて準備中であります。

財政的にも公益財団法人となった事を最大限活かして、関係企業からの協賛金、寄付金等や関係団体からの助成金についても、広範な協力が得られるよう、従来以上に積極的に努力を行うようにしたいと考えております。

今後とも、関係の皆さま方にはご支援ご協力を頂きたく、よろしく願いいたします。

1. 科学技術に関する普及、調査研究及びこれらに対する助成に関する事業

(1) メカトロニクス技術・ロボット技術の普及活動と助成事業

① マイクロマウス2011 (つくばチャレンジ2011/第32回全日本マイクロマウス大会)の開催

5年目となる「つくばチャレンジ」(REAL WORLD ROBOT CHALLENGE)は、エレベーター搭乗などを含む高度な技術課題を更に加えながら、実験走行を経て、トライアル走行、ファイナル走行を11月に開催した。なお、同コンセプトの技術課題による「つくばチャレンジ」は、当初の計画通り今回をもって終了とする。同時開催の「全日本マイクロマウス大会」は総登録数323台を受け、各競技種目において熱戦が繰り広げられた。

i. つくばチャレンジ2011/会場：つくば市中央公園通りの遊歩道

- ・本走行期日：2011年11月15(火)～16日(水)
- ・参加登録総数：69チーム

トライアル走行(15日) 出走66チーム

ファイナル走行(16日) 出走23チーム

※ファイナル走行(約1.4km) 課題達成：以下の6チーム(登録順)

No.	チーム名(団体名)	ロボット名	責任者名
08	群馬大学太田研・ミツバチーム	MG11	塩谷 敏昭
16	筑波大学知能ロボット研究室 ペですとりあん	る〜ぶ	識名 拓
24	防衛大学校 滝田研究室	Smart Dump 5	滝田 好宏
28	宇都宮大学 尾崎研究室 チームA	MAUV	尾崎 功一
31	千葉工業大学 fuRo アウトドア部	Papyrus III	小柳 栄次
35	Scuderia Frola AIST(産総研)	Marcus	横塚 将志

※その他、7月よりつくばチャレンジ2011コースにて合同の公開実験走行を全8回実施(第1回～第3回実験走行は旧特例民法法人最終年度期間の事業)。

つくばチャレンジ5年間の参加チーム数とその結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
参加登録数	33	50	72	70	69
出走数	27	47	65	67	67
トライアル通過数	11	22	34	31	23
課題達成数	3	1	5	7	6

- ii. 第31回全日本マイクロマウス大会：会場／つくばカピオ
  - ・期日：2011年11月18(金・祝)～20日(日)
  - ・参加登録総数：323台

※第32回全日本マイクロマウス大会競技毎参加台数とその結果

	登録数	予選出走	決勝出走	内完走数
マイクロマウス（ハーフ）競技	33	25	13	11
マイクロマウスクラシック競技 エキスパートクラス	82	71	31	23
マイクロマウスクラシック競技 フレッシュマンクラス	99	70	30	24
マイクロクリッパー競技	12	***	12	7
ロボトレース競技	97	86	37	25

※各競技優勝者

競技名				
ロボット名	氏名	団体名	記録	成績
マイクロマウス（ハーフ）競技				
こじまうす7	小島 宏一	京都大学機械研究会	04:991	優勝+自律賞
マイクロマウスクラシック競技 エキスパートクラス				
Min7.1	Ng Beng Kiat	Ngee Ann Polytechnic	03:921	優勝
マイクロマウスクラシック競技 フレッシュマンクラス				
Mun Bbaeng	Mun Byeongjun	Dankook UNIV.	07:500	優勝+探索賞
マイクロクリッパー競技（※本大会を持って全国大会での開催終了）				
Accelerator	SHI YANG Ngee	Ann Polytechnic NP-505	31個	優勝
ロボトレース競技				
Li-Zai	Shih-Wei Chao	LungHwa University of Science and Technology	21:838	優勝

②つくばチャレンジの技術情報公開の一環として下記の事業を実施

- i. 第11回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会に於ける  
つくばチャレンジのオーガナイズドセッション（発表：47件）  
2011年12月23日(金・祝)～25日(日) 京都大学吉田キャンパス
- ii. つくばチャレンジ開催記念シンポジウム（参加者総数：214名）  
2012年1月7日(土) 芝浦工業大学 豊洲キャンパス  
委員長・副委員長講演、つくば市長のご挨拶ほか課題達成6チームの技術発表  
午後は、トライアル通過全チーム及び過去の課題達成チームポスター発表

※主催：公益財団法人ニューテクノロジー振興財団

共催：芝浦工業大学、公益財団法人計測自動制御学会 S I 部門(50周年事業)

③マイクロマウス地区大会等の開催と助成

昨年同様、下記の地区大会・学生大会を共催すると共に助成を行った。

- ・ 7月17日(日)関西地区大会：京都コンピュータ学院
- ・ 9月4日(日)中部地区初級者大会：名古屋工学院専門学校
- ・ 9月25日(日)東日本地区大会：東京科学技術館
- ・ 10月2日(日)北陸信越地区大会：新潟県立自然科学館

※以上は、移行前の旧特例民法法人としての事業（以下が新法人としての事業）

- ・ 10月16日(日)東北地区大会：置賜地場産業振興センター(山形県長井市)
- ・ 10月23日(日)中部地区大会：名古屋工学院専門学校
- ・ 10月30日(日)九州地区大会：熊本工業高等専門学校
- ・ 11月6日(日)全日本学生大会：芝浦工業大学豊洲キャンパス

(2)その他の普及活動

①財団法人日本視聴覚教育協会他と共催し、全国こども科学映像祭を実施。

表彰式・上映会：2012年2月11日(土・祝)、日本科学未来館

・ 文部科学大臣賞

【小学生部門】

「アブラゼミのウロウロくん」

井出 麟／井出洋子(母)

相模原市立旭小学校4年(神奈川県)

【中学生部門】

「シロアリの研究」ーあなたは本当のシロアリの姿を知っていますかー

佐々木東陽／大澤康太郎

八丈町立三原中学校 サイエンスクラブ(東京都)

②広報事業

当財団ホームページ上での財団アクティビティ情報の更新・公開、「つくばチャレンジ2011」「第32回全日本マイクロマウス大会」の参加募集受付、ならびに結果レポートの掲載、ほか、随時メールマガジンの発行等の情報提供サービスを実施。

以 上

なお、法律および当財団定款に規定された「事業報告の附属明細書」については、今年度については「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないので、作成しない事とします。